

昌一金属支部14春闘報告 地域の闘いを背景に敢然と闘い抜く

今春闘は、安倍首相が消費増税や相次ぐ負担増を前にして「賃上げ要請」なるものを演出し、経団連など財界が「要請に応える」というポーズをとる中で、連合など大手組合が仕方なくベア要求を久方ぶりに取り組むという情勢にありました。

しかし港合同では、いわゆる「官製春闘」とは無縁に、団結権を掲げて地域統一闘争として断固として闘いに立ち上がりました。

昌一金属支部でも、港



合同の統一闘争の方針を受けて、職場討議で要求を決定し、行動をもって闘っていくことを確認しました。集会に向けて横断幕も「一四春闘勝利！大幅賃上げを勝ち取ろう」

「派遣法改悪・限定正社員制度反対」「戦争と改憲の安倍政権打倒」「大阪市は組合に謝罪し不当労働行為をやめろ」の文句で組合員が寄ってたかって色塗りをして、闘いの機運を盛り上げていきました。

また一四春闘から丸二年となる弁天町駅前での水曜街宣も、春闘・賃上げ闘争を闘う意義を知らせ、未組織労働者に労働組合への加盟を呼びかける内容はもちろん、特に今春闘では大阪市長出直



し選挙と同時期であることから、大阪市の不当労働行為を徹底追及するものとして取り組みを強化しました。過程では、駅前の場所取りで、維新の会の街宣隊とバッテリーグすることも。

職場においては、港合同事務局や各支部の支援・協力だけでなく、港地区

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！



平和人権連帯会議に結集する官民の仲間、斎場解雇撤回闘争を闘う原告団からも結集をいただき、構内集会・デモを貫徹していきました。

昌一金属は、電力関連産業を生業とする関係から、今日の原発再稼働をめぐる動きや二〇一六年の電力全面自由化の流れ



という、電力の大再編情勢の中で、極めて厳しい状況にあります。労働組合がしっかり団結して闘うことで活路を切り開こうと闘いを進めました。

支部組合員はこのような状況に負けず、本当によく闘ってくれました。何より生活への不安、賃金が上がらないという

怒り、少しでも生活を良くしたいという思いが、集中した取り組みになったのだと思います。

特に集会での組合員の決意表明は、そうした思いを前面に出し「会社は大変だと言うが労働者の生活はもっと大変」「会社は雇用責任を果せ」と大幅賃上げを迫っていくものとなりました。

そうした組合員の思いを背景に、執行部は団交で激しく経営に迫り、経営として「労使関係を重視する」ものとして、昨年を上回る成果を上げることとなりました。

また今春闘でも闘争委員会を形成する組合員が、

闘争全体を主導する役割を担い、支部の先頭で闘い抜いてくれたことは特筆すべきことだと思えます。

いずれにしても、港合同という地域的背景を力に、現場での闘い・行動によって現状を打開していく姿勢を貫いたことで、支部の主体的力量を強化し、次につながる闘いになったと思います。

港合同各支部の仲間、地域の官民の仲間を改めて感謝を申し上げます。寄せられた連帯に答え、地域闘争の前進に向けて、全力で闘っていくことを決意します。

昌一金属支部執行委員会